

定時社員総会を開催いたしました

2020年7月29日(水)、MMWIN 2020年度定時社員総会が開催されました。
「2019年度・事業報告」及び「2020年度・事業計画」、「2020年度・収支予算」についてのご報告とともに、審議事項として「2019年度・決算の承認について」、「理事および監事の役員改選について」が議案として提案され、承認を頂きました。

透析連携のためのMMWIN活用Web講座開催しました

2020年9月17日(木)、第3回透析連携のためのMMWIN 活用Web講座を開催いたしました。

プログラム

- 【司会】 宮崎 真理子 先生
(東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 科長)
- 【挨拶】 中山 雅晴 先生
(東北大学大学院医学系研究科 医学情報学分野 教授)
- 【講演1】 「地域密着透析医療におけるMMWINの活用」
講師：尾形 佳昭 先生
(岩切病院 血液浄化技術部 兼 診療推進部 部長)
- 【講演2】 「東北圏域の地域CKD連携について」
講師：佐々木 浩久 先生
(大崎市民病院 地域医療連携室 係長)
- 【Discussion】



初のオンライン開催となりましたが、MMWIN 加入・未加入を問わず、21施設、合計52名の多くの方々に参加いただきました。

講演では、自施設での透析連携の活用事例、課題等をご紹介いただき、ディスカッションでは、『透析患者さん全員の加入を勧めているが、加入を勧める職員の意識が非常に重要』、『CKDでは、関連検査をMMWINで見れるのが有用である』とのご意見をいただきました。また、クリニックの先生より、『基幹病院の情報をよく見ており、特に透析患者さんではデータが多いので、参照システムの表示速度を上げてほしい』とご意見がありました。

Web講座の様子

透析患者様において、MMWINは災害時の緊急対応のみならず、日々の施設間での連携においても有効活用できることから、会員の皆様はもとより、関係各位のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



MMWIN® 通信
みんなのみやぎネット® NEWS

2020
9.25
vol. 62

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会



MMWIN眼科連携に

仙台市青葉区

星陵眼科 緑内障クリニック

が参加しました

2018年度から県内の眼科施設において「MMWIN眼科連携システム」を展開し、利活用を促進して参りましたが、本年4月から新たに星陵眼科 緑内障クリニックが運用を開始致しました。

星陵眼科 緑内障クリニックの運用開始により、MMWIN眼科連携参加施設は47施設（内訳：21病院、26診療所）となりました。

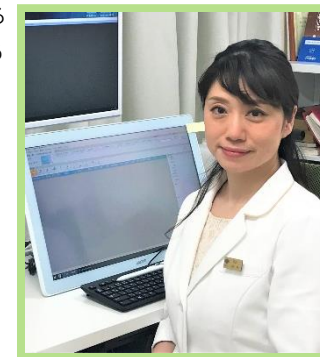
同院は本年4月に仙台市青葉区に開院され、主に東北大学病院や仙台市内の眼科診療所との情報連携を図るために「MMWIN眼科連携システム」をご活用頂いております。

院長の山崎 舞先生に、MMWINシステムの活用例やメリットについて伺いました。

これまで、OCTや眼底写真、特殊検査のデータを他施設と共有する
場合、検査結果を印刷したりUSBなどのメディアを使用する必要が
ありましたが、「MMWIN眼科連携システム」を活用することで迅速に
多くのデータを共有できるようになりました。

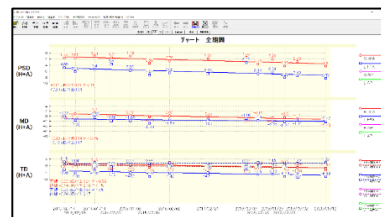
特に緑内障診療においては複数施設で実施した視野検査のデータを統
合することで、より正確な進行判定が可能になったことはとても大き
なメリットだと実感しております。

MMWINを活用することで医療機関同士の連携がとてもスムーズにな
り、ご紹介いただいた患者様の診断や治療の検討も迅速に行えるよ
うになりました。患者様にとっても医療機関にとっても、非常に有益な
システムであると思います。

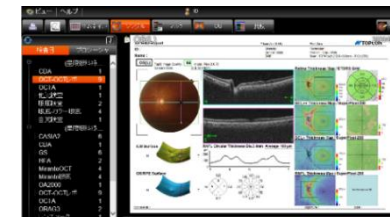


院長 山崎 舞先生

システム利活用前提となる患者加入促進活動については、初診の問診票記入時に、MMWIN概要
及び加入メリット等を説明して頂いた結果、本年4月～8月の5ヶ月間で約200名の患者さんが
MMWIN加入されました。



視野検査値の統合例



OCTレポート例

MMWIN透析連携に 登米市民病院が参加しました！

透析連携システムは、MMWINシステムの中の文書連携システムを用いて、透析基礎情報や日々の経過記録を保存し、参加施設間で共有する仕組みです。

従来より、県内の透析施設において「MMWIN透析連携システム」をご活用いただいておりますが、本年6月から新たに登米市立登米市民病院が参加されました。

MMWIN透析連携施設は病院11施設、診療所12施設の合計23施設となり、宮城県内の透析施設の約4割が透析連携に参加していることとなります。



登米市民病院外観



登米市民病院職員の皆様

本年6月を以って透析診療が休診となった登米市立よねやま診療所からの透析患者受け入れに向けて、登米市民病院では透析室を新設し、透析連携システム稼働に向けて準備を進めております。なお、透析連携の活用により不可欠となるのが患者のMMWIN加入であり、MMWINに未加入の患者は透析連携システムで情報共有する事が出来ませんが、当協議会ではよねやま診療所において患者加入活動を実施し、8割強の患者に加入いただきました。今後、登米市民病院においてもMMWIN透析連携を活用し、スムーズに情報共有できるものと思われま

透析連携システム稼働前の透析患者の紹介は、患者の基礎情報や膨大な透析記録を、事前に紹介先へFAX送信して転院されておりましたが、MMWIN透析連携に参加する事で、このFAX送信作業が省略され業務のスリム化を図る事が出来、かつ誤送信を防ぐという事が可能となります。



透析室の様子

透析文書を「FAX感覚で自動登録」する仕組みができました

【特徴】

- ✓ 透析システム/電子カルテシステムへの入れ替えに左右されません。いつでも導入可能です。
- ✓ 連携先病院へのFAXを使った「透析経過・基礎情報」文書の送信業務から解放されます。
- ✓ 登録文書はフルカラーで鮮明です。

複合機の操作画面

※連携する複合機については、お問い合わせください



コピー機の本体パネルがカスタマイズされているので誰でも簡単に操作可能



スキャンされた情報がMMWINのサーバーに自動アップロードされ、参照システムに反映



現場の業務負担を最小限に抑えつつ医療体制の更なる充実を促進します

活用施設紹介

社会福祉法人さんりん福祉会
東北圏
(大崎市鳴子) **南原デイサービスセンター**

施設長補佐 山田 志津子様



ディサービスでのMMWIN参照について、また、ご家族様への加入声かけ場面など、日ごろのMMWIN活用場面についてご紹介いただきました。

MMWINの活用について

当事業所ではMMWINに加入したのは5年前ですが、しばらく活用できていない状態でした。しかし今年度に入りMMWINの活用を再開いたしました。やはり高齢の利用者様から通院や入院した際の詳細な情報を確認する事はかなり困難になってきています。また過去の病歴についても本人、家族も把握しきれていないという事もありました。担当ケアマネージャーと情報を共有しながらMMWINの医療情報を活用し、ご本人様の状態を知る事で有効に活用させていただいております。



【さんりん福祉会外観】

利用者様の加入の声掛けについて

新規でのご利用者様は初回の面談や契約時、また初回利用時にご本人様、ご家族様にお声がけさせていただいております。MMWINからのパンフレットやMMWIN通信を活用し、ご説明させていただいて



【南原ディサービスセンター職員様】

おります。
 皆様「あー病院でなんか見たことあるな」「実は私、加入しているんですよ」などの反応や、また「ちょっと私は年寄りだからな…。難しいことはわがらねなあ…」という反応もありました。その際はやはりパンフレットを活用し説明を行うようにしています。

当施設を利用している利用者様の約半数程度の方が声掛けにて、MMWINに加入されました。

これからの活用への期待、課題

当施設では活用を再開したばかりで、まだなかなか全て活用しきれていない状態ではございますが、今後はMMWINのデータを活用し、医療情報の把握、医療との連携に努め、ご利用者様が住み慣れた地域、場所での生活を続けていけますように努めていきたいと考えております。



【自然豊かな施設周辺の様子】